

自学の態度を育てる生徒指導

好間中学校

一、研究主題の流れ

○昭和四十八年度～昭和四十九年度
自校研究「自学の態度の育成」
教科指導を中心として
○昭和五十年年度～昭和五十一年度
市指定実践研究校「自学の態度を育成するための実践研究」
授業を中心として
○昭和五十二年年度～昭和五十三年年度
文部省指定「自学の態度を育成するための生徒指導のあり方」
学級指導を中心として

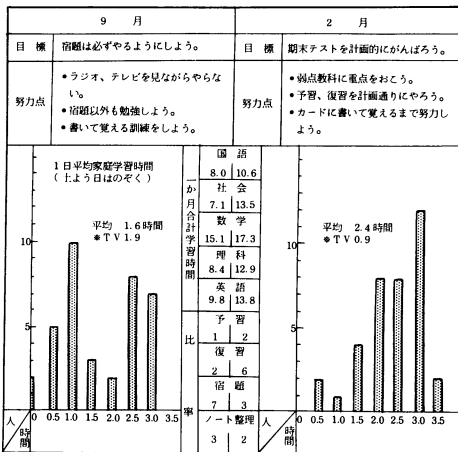
二、研究のねらい

○学級指導を中心として、それを取りまく学校生活のあり方をとらえる。
○学級担任や教科担任と生徒との人間関係を深める場を形づくる。
○特別活動の分野を広くとらえ、それらを通して生徒活動を推し進める。
○学習意欲の向上を図るための手だて

表1 第3学年学業指導月間留意点

月	学業指導月間留意点	学級指導(サイクル方式)	指導の実際(計画と実践)
4	教科の学習法を身につけさせる。	最上級生としての自覚	5 1 学年集会で年間の見通しと生活設計の立て方の一斉指導をする。
5	計画的な学習をさせる。	生活日課表を作成する	資料1 1 年間家庭学習計画表 2 希望校別進路計画表 3 家庭学習の型
6	能率的・効果的な学習方法をくふうさせる。	正しい授業のうけ方 学習計画実践の反省と評価	各自の計画表をもとに実践させる。
7	学習態度や方法の反省のもとに夏休みの計画をたてさせる。	夏休みの意義と効果的な生活設計 ↓(不得意科目の克服)	資料4 実践集計表(5月) 集計をもとに反省、修正させる。
8	実地を通じ自己を豊かにする学習をさせる。	夏休みの計画実践の反省と評価	① 夏休みの生活目標と生活設計表 ② 夏休みの学習計画表(含不得意教科の克服)
9	実践記録の交換発表により集団の意欲を高めさせる。	二学期を見通した計画の立案と実践する意欲	生活設計とその実行の状況を反省し、各自の問題点から今後の向上策を立てさせる。
10	たがいに力をあわせて学習を深めさせる。	学習計画・学習法の反省と修正	① 二学期の教育課程 ② 二学期の学習計画表(進路と弱点補強を考えた)
11	個人学習のたいせつさを再認識するとともに集団への適応を進める。	進路計画と学習法の再検討 ↓ 効率的学習法を考える	各自の進路を考えた上で、問題点を改善する計画を立て実行させる。
12	学習法・態度の総点検をさせ学習の効率化を図る。	残された3か月を考えた計画 ↓(資料をもとに進路決定) 健康と社会行事を考慮した生活設計	
1	新たな気持ちで学習への強い意志をもたせる。	↓(新年の抱負と決意) 強力な実践力 ↓(はげまし合う)	
2	深化された学習態度を作らせる。	学習によって得たものの整理と新しい生活への適応	
3	学習のよさごとと将来への意欲をもたせる。		

表2 1日平均家庭学習時間の変容(2年1学期)



○目標意識、役割分担が明確であれば困難な問題でも生徒たちの手で自主的に解決していくという確信を得た。
○自主的な活動に大きな誇りと喜びを持つようになった。
○生徒活動の時間に計画

三、研究の計画と経過

○第一年度(昭和五十二年年度)
積極的に学習に取り組ませるための学習指導の研究と、学習上のしつけ、

を考え、活動の場をつくる。

○生徒一人一人にあつた学業生活の計画立案、自分で計画し実行する機会を与える指導の実践

四、研究内容

○自学の態度を育成させるための学級指導のあり方を研究し実践する。
○学級指導を中心とし、学業指導で生徒の心情に迫るための指導とその実践研究。

生活訓練の指導に視点を置く。
○第二年度(昭和五十三年年度)
ねばり強さを培うために自己実現を図るための援助指導をし、学級指導、生徒理解、特設の日の計画改善を図る。

五、実践例

(一) 学級指導(第一研究部)

生徒の学業生活を阻害する要因は多種であるが、本校の場合は根気強さが乏しく、その原因の発見と解消のための援助指導が望まれる。生徒の内因に目をむけ、学習の意欲を喚起させることにより円滑な学業生活へ導くことが必要である。

そこで、生徒の「計画—実践—反省—改善」の過程を的確にとらえながら多面的な角度から学級指導ができるよう組織化を図り実践した。

- ① 実践資料(表1参照)
- ② 学級の変容(表2参照)
- ③ 実践の成果